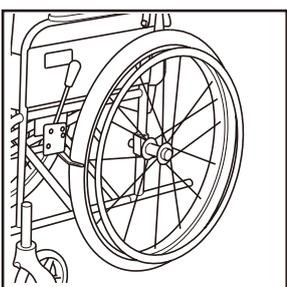
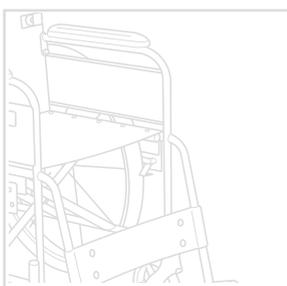
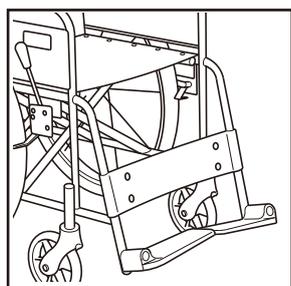
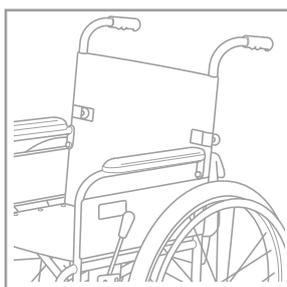
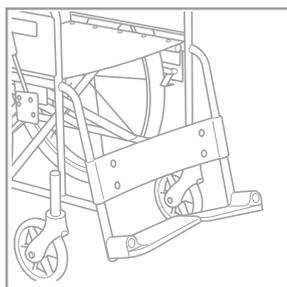
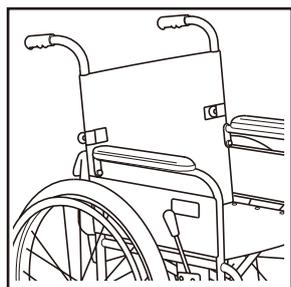


車いす

取扱説明書

より快適に車いすをお使いいただくために



はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。
ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。
また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。

目次

安全上のご注意	2
各部のなまえ	6
使いかた	7
ブレーキのかけかた	7
開きかた / たたみかた	8
乗り降りのしかた	9
アームサポートフレームの跳ね上げ	10
アームサポートの取り外し・取り付け	10
シートの角度調節 (ティルト機能)	11
バックサポートの角度調節 (リクライニング機能)	11
フット・レッグサポートの開閉・取り外し	12
フット・レッグサポートの取り外し・取り付け	12
各部の調節のしかた	13
アームサポートの高さ調節	13
フットサポートの高さ調節	13
座面の高さ調節	14
フット・レッグサポートの上げ下げ	16
連結バーの取り付け・取り外し [片手駆動 (シャフト式) 仕様車のみ]	17
バックサポートの張り具合調節	17
使用上のご注意	18
保守・点検	18
お手入れ・保管について	18
走行上のご注意	20
段の上がりかた	20
段の下りかた	20
困った時には	裏表紙
アフターサービス	裏表紙
保証	裏表紙

※本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】



危険

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】



警告・注意を促す内容があることを告げるものです。



禁止の行為であることを告げるものです。



行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



- * SGマーク制度は、車いすの欠陥によって発生した人身事故に対する賠償制度です。
- * 安全性が確保されています。
- * 誤使用を防ぐために取扱説明書がついています。
- * SGマーク付き製品の欠陥により人身事故が起きた場合は、賠償制度が実施されます。

⚠️ 危険



スピードを出さないでください。

スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。



急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり下りてください。また、介助用ブレーキレバーを使いスピードを落としてください。



自走用であっても自力で操作不可能な坂道では、介助者を伴ってください。



エスカレーター（車いす対応エスカレーター除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）でのご使用は絶対に行わないでください。転倒や転落など重大な事故やけがにつながる恐れがあります。また、車いす対応エスカレーターをご利用の際は必ず施設管理者の指示に従ってください。



車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜のある場所では、駐車ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。



乗り降りの際にはステップに乗らないでください。駆動輪（主輪）が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

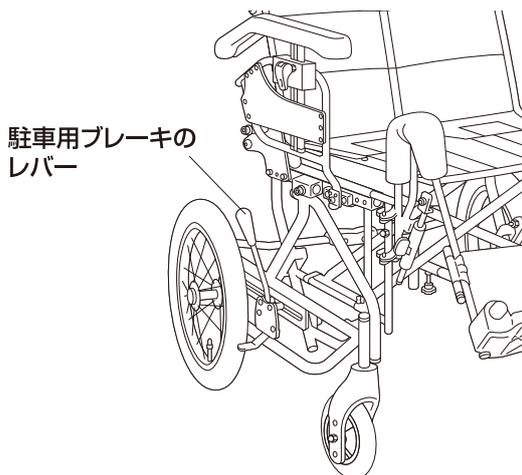


【モジュール車の場合】

駆動輪（主輪）とキャストは、同じ仕様の部品を使用し、それぞれ座高に対応する位置に取り付けてください。駆動輪（主輪）とキャストの取り付け高さを誤ると、腰掛けた場合に転倒して、事故やけがにつながる恐れがあります。

警告

- !** 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。



- ⊘** 乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。

- !** 使用する前に、両側の背折れジョイントが確実にロックされていることを確認してください。ロックされていないと、使用者が後方に転倒する恐れがあります。

- ⊘** アームサポート、アームサポートフレーム、フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。アームサポートやフット・レッグサポートのロックが外れ、けがをする恐れがあります。

- ⊘** 走行中は、アームサポートフレームの跳ね上げ、フット・レッグサポートの開閉、ティルト操作等をしないでください。事故やけがにつながる恐れがあります。

- !** 前かがみの状態など、車いす前方向へのみ体重をかけるような状況は、座面後方が浮き上がり前方に転倒する恐れがあります。

- !** 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。

- !** 各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。

- ⊘** ウイングアームサポートを跳ね上げた状態で走行しないでください。使用者が車いすから落ちるなどの、事故やけがにつながる恐れがあります。

- !** ウイングアームサポートを戻した後は、必ずロックされたことを確認してください。使用中に外れると、事故やけがにつながる恐れがあります。

- ⊘** フット・レッグサポートを開いた状態で走行しないでください。事故やけがにつながる恐れがあります。

- !** フット・レッグサポートを閉じた後は、必ずフックで固定されたことを確認してください。事故やけがにつながる恐れがあります。

- !** フット・レッグサポートの開閉時およびウイングアームサポートの跳ね上げ時は、フック部や可動部に身体や衣服を引っ掛けたりはさんだりしないように注意してください。けがをする恐れがあります。

- !** 乗り降りの際、スイングアウト部に身体や衣服を引っ掛けないように注意してください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

- !** 乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。

- ⊘** 手押しハンドル、本体フレームおよびバックサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしないでください。過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。

- !** 制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

- !** 【モジュール車の場合】座面の高さ・座幅および前後車輪間の距離調節は、販売店へご依頼ください。

警告

- 

車いすの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わないでください。
製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

[ティルト・リクライニング機能付車いすの場合]

- 

ティルト・リクライニング操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行ってください。
使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていると、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。
- 

ティルト・リクライニングさせた状態で段を乗り越えたり、スロープを通過しないでください。
転倒など事故につながる恐れがあります。

- 

ティルト、リクライニングの角度調節は、頭部が座面よりも低くならない範囲で行ってください。
使用者が後方に転倒したり、すり落ちたりする恐れがあります。
- 

ティルト・リクライニングさせた状態で乗り降りしないでください。
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

ティルト・リクライニング操作は必ず介助者が行ってください。

注意

- 

この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。
- 

フレームに最大体重(積載物も含む)が記載されている場合は、体重制限を守って使用してください。
- 

車いすをたたむときや、折りたたんだ車いすを開くときは、シートパイプを握らないでください。
手をはさみ危険です。
- 

使用者が乗車中は、背折れの操作は絶対に行わないでください。
背折れのヒンジ部分で手や腕をはさむ恐れがあります。
- 

背折れジョイント、跳ね上げ式アームサポート、フット・レッグサポートなどの可動部に指や身体をはさまないように注意してください。
- 

走行中、足がフットサポートから落ちないようにしてください。



- 

アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。
アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。
- 

使用する前に駆動輪(主輪)・キャスト・駐車用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。
ゆるんだ状態で使用されると、部品のガタツキや脱落などの原因となり事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

高さ調整式押し手グリップは、クイックリリースのナットで固さを調整し、しっかり固定された状態を確認し使用してください。
- 

アームサポートの高さを調整した後は、必ずロックされたことを確認してください。
- 

操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

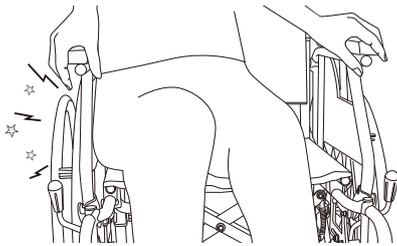
⚠️ 注意

🚫 走行中、身体を乗り出さないでください。
走行の安全を損ない危険です。

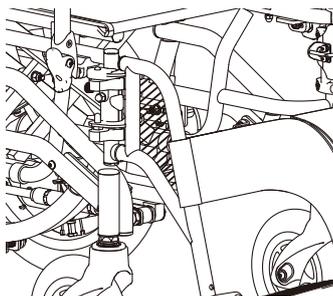
🚫 フットサポートは足で上げないでください。
けがをする恐れがあります。

🚫 フットサポートの下には足を入れないでください。
足を地面でこすったり、フットサポートやキャスタなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。

🚫 使用者の体格や座位姿勢によってサイドガードが外側にひろがった状態で使用しないでください。
車いすの破損や故障の原因となります。



⚠️ フット・レッグサポートのすき間に手や足を入れないでください。
けがをする恐れがあります。



🚫 シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。
製品を傷める恐れがあります。

⚠️ バックサポートの面ファスナーの張り具合を過度に強くしますと、十分に車いすが開かなくなりフレームの変型の原因となります。

⚠️ フットサポート下面は地上より50mm以上あげた状態で使用してください。

🚫 暖房器具にタイヤを近づけないでください。
タイヤの空気が膨張し、大きな音をたててパンクすることがあります。



ハイポリマータイヤの場合、タイヤの表面が溶けたり破損する場合があります。破損した場合は乗車をやめて必ず修理してください。

⚠️ 段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり操作してください。
車いすの破損や故障の原因となります。

⚠️ 車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。
車いすの破損や故障の原因となります。

【ティルト・リクライニング機能付車いすの場合】

🚫 ティルト・リクライニングさせた状態でアームサポートを跳ね上げないでください。
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

🚫 リクライニング車いすでは、リクライニングした状態の背シートには腰かけないでください。
転倒によるけがや、車いすの破損の原因になります。

【ロックンブレーキ装着車の場合】

🚫 ロックンブレーキを他の車いすに取り付けて使用しないでください。

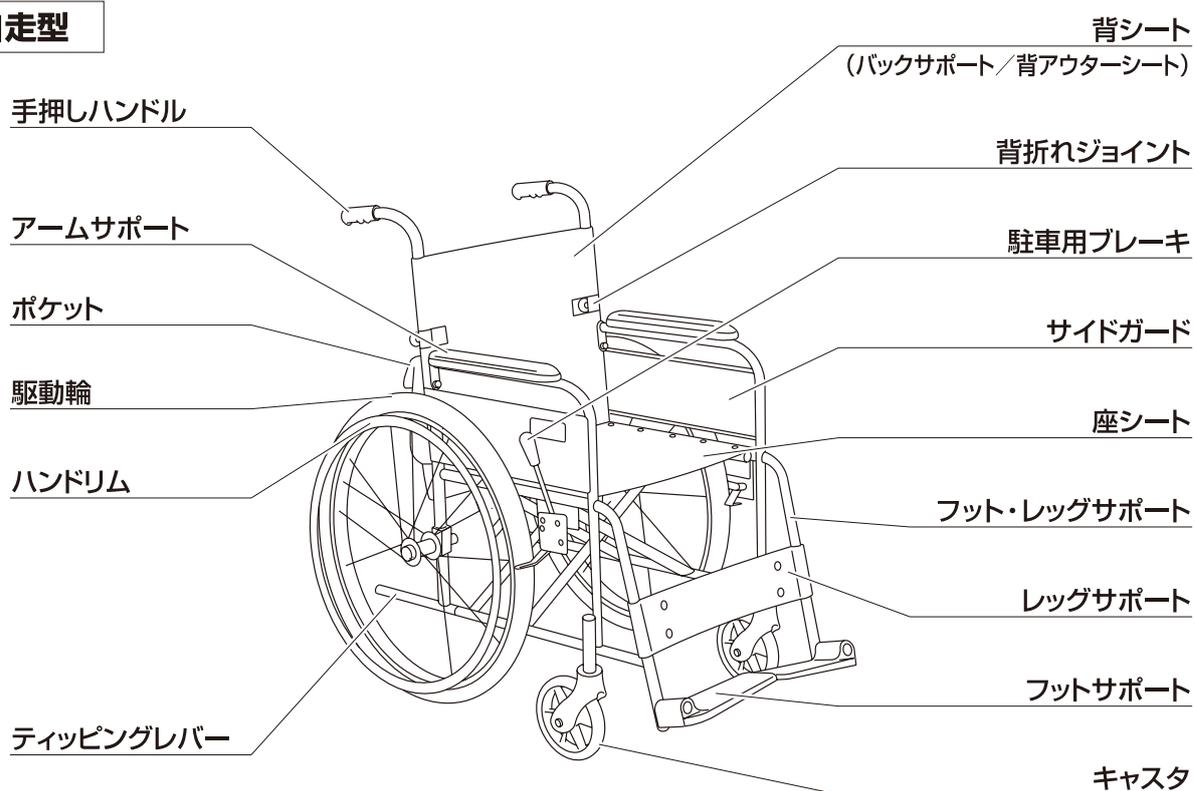
🚫 車輪を他のサイズや種類に変更しないでください。

⚠️ ロックンブレーキはタイヤの空気圧低下時等の制動力を保証するものではありません。使用前にタイヤの空気圧等の点検を行い、必要に応じて空気の補充をしてください。

各部のなまえ

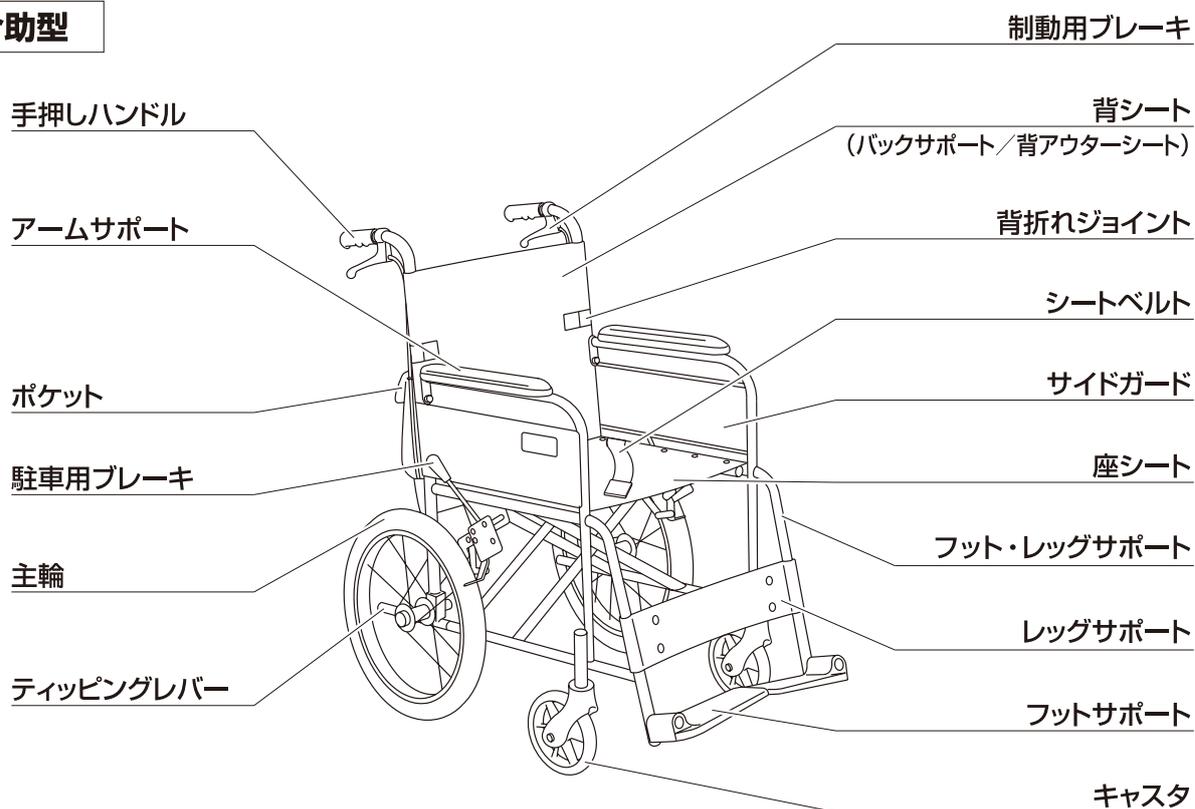
下図は標準仕様車です。車いすによっては、装備や形状が異なります。

自走型



※自走型でも介助用として使用する場合は、制動用ブレーキが付いているものをお選びください。

介助型



※シートベルトはオプションです。

使いかた

ブレーキのかけかた

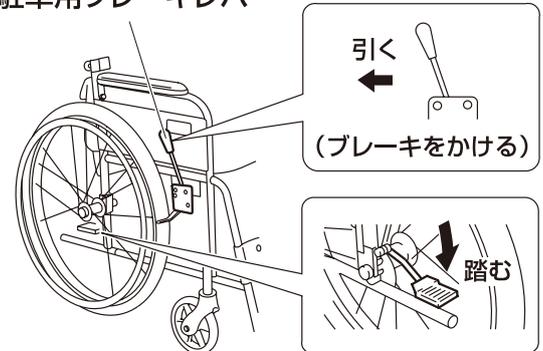
⚠ 警告

- ・ 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。
- ・ 乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。
- ・ 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。
- ・ タイヤの摩耗に注意してください。タイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
- ・ 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。

● 駐車用ブレーキのかけかた

介助者もしくは使用者が、左右の駐車用ブレーキレバーを後方に引いてかけます。
ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。

駐車用ブレーキレバー



● 足踏みブレーキの使いかた

介助者が、左右の足踏みブレーキを踏み込みます。
(駐車用ブレーキがかかります。)
足踏みブレーキを足で持ち上げて元の位置に戻すと解除されます。

● 制動用ブレーキのかけかた

⚠ 危険

- ・ スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。
- ・ 急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり下りてください。また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。

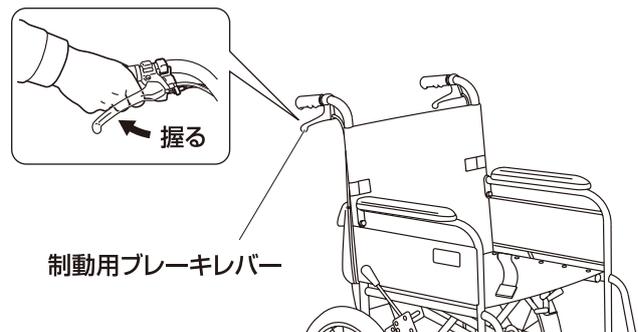
⚠ 警告

ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

⚠ 注意

ブレーキワイヤーは、安全のため定期的に交換してください。(交換の目安：1年に1度)

介助者が、左右の手押しハンドル下にある黒色の制動用ブレーキレバーを左右同時に握ってかけます。
ブレーキレバーを放すと解除されます。



車いすの開きかた / たたみかた

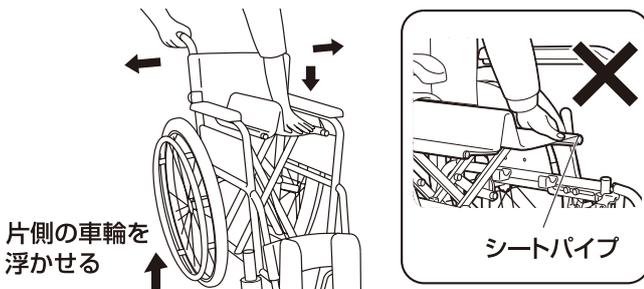
△注意	<ul style="list-style-type: none"> ・シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。 ・必ず駐車用ブレーキをかけて操作を行ってください。 ・背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。
-----	--

● 開きかた

- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 手押しハンドルを両側とも上げます。
 - * 背折れジョイントが完全にロックされるまで上げてください。
 - * 開口部に手や指を近づけないでください。手や指をはさんでけがをする恐れがあります。



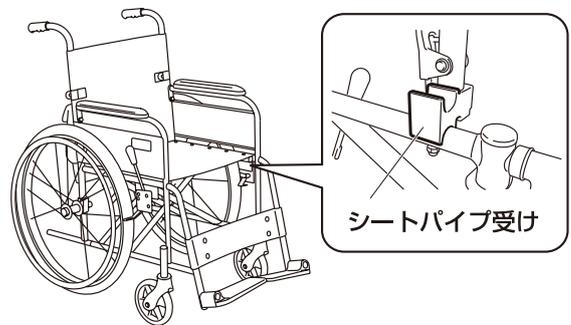
- 3 手押しハンドルを持って、軽く左右に開きます。
- 4 片側の車輪を少し浮かせて、その状態を保ちます。
- 5 車輪を浮かせていない側の座シートの表面を、手の平で押して開きます。
 - * シートパイプを握らないでください。
 - * シートパイプの中央付近を押し、先端は押さないでください。



【シートパイプ受けが付いている場合】

シートパイプ受けに、シートパイプがしっかりとハマっていることを確認してください。

* しっかりとハマっていない場合は、シートパイプの中央付近を押しはめてください。押し時は、シートパイプの先端を押さないでください。フレームが変形する恐れがあります。

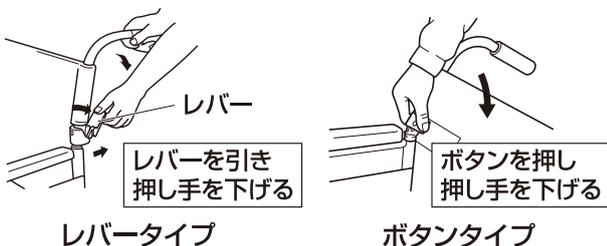


シートパイプ受けにシートパイプをはめ込むことで、ガタつきをなくす構造になっています。

- 6 背アウターシートと座アウターシート(クッション)を取り付けます。(スリングシートの場合は不要です。)

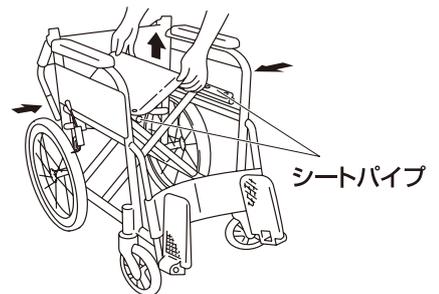
● たたみかた

- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 背アウターシートと座アウターシート(クッション)を取り外します。(スリングシートの場合は不要です。)
- 3 図のように、押し手を両側とも下げます。



- 4 フットサポートを両側とも上げます。

- 5 座シートの前後を持ち上げて、シートパイプを引き寄せます。



- 6 左右のアームサポートを外側から内側に押し、座シートを折りたたみます。

* 車いすをたたむときは各部品が可動しますので、手をはさまないように注意してください。

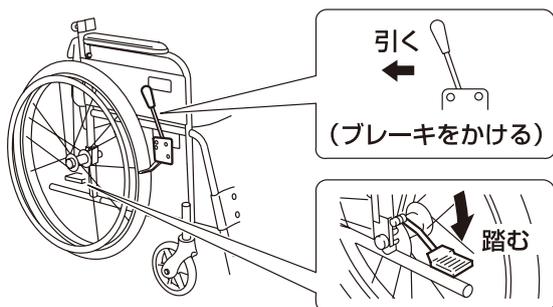
乗り降りのしかた

⚠ 警告

- ・ 乗り降り時は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだし大変危険です。
- ・ 車いすに乗り移る際、フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。
- ・ 上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。

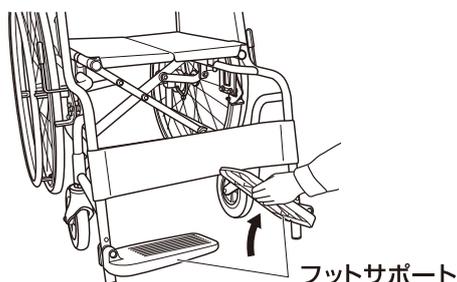
● 乗りかた

- 1** 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。



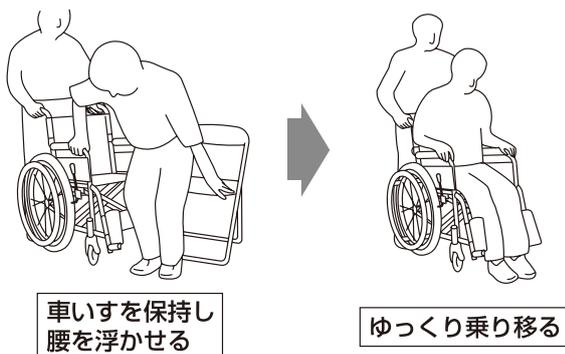
- 2** フットサポートを両側とも上げます。

- * フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。
- * 上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。



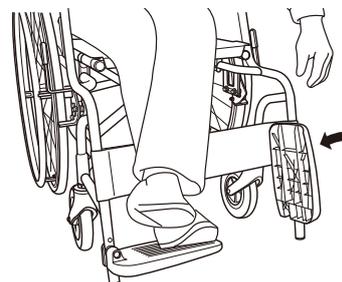
- 3** 必要に応じて、「フット・レッグサポートの開閉・取り外し」(P.12参照)や、「アームサポートフレームの跳ね上げ」(P.10参照)を行います。

- 4** 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗り移ります。



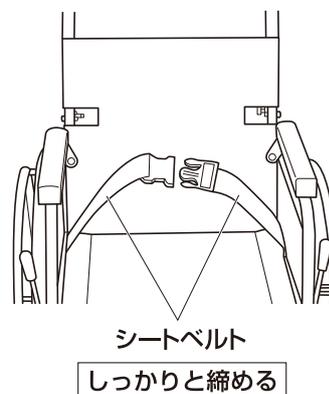
- 5** 「フット・レッグサポートの開閉・取り外し」や、「アームサポートフレームの跳ね上げ」を行っていた場合は、元に戻します。

- 6** フットサポートを下ろして両足を乗せます。



- 7** 必要に応じてシートベルト(オプション)を締めます。

- * 体格に合わせてシートベルトを調整し、座った姿勢をしっかりと安定させてください。



● 降りかた

「乗りかた」と逆の要領で行ってください。

アームサポートフレームの跳ね上げ

アームサポートフレームをワンタッチで後方へ跳ね上げることができます。ベッドと車いすの間の移乗などがスムーズに行えます。

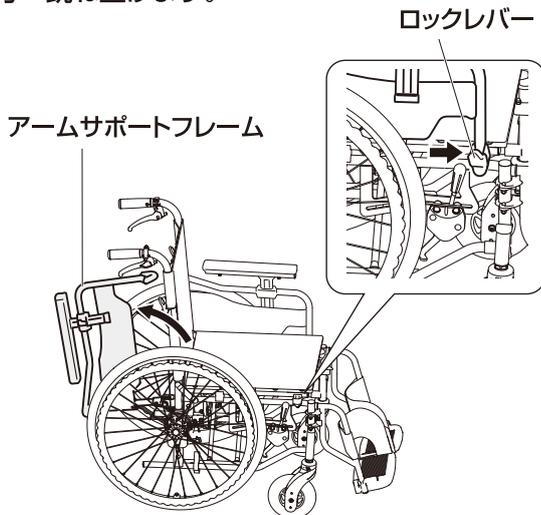
△注意

- ・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・アームサポートフレームを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて使用者の転倒、落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。
- ・アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。

● 跳ね上げかた

Aタイプ

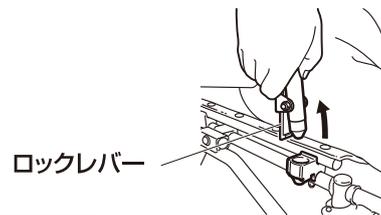
ロックレバーを押しながら、アームサポートフレームを後方へ跳ね上げます。



*アームサポートフレームを上げた状態で、アームサポートフレームに力を加えないでください。フレームが変形し故障の原因となります。

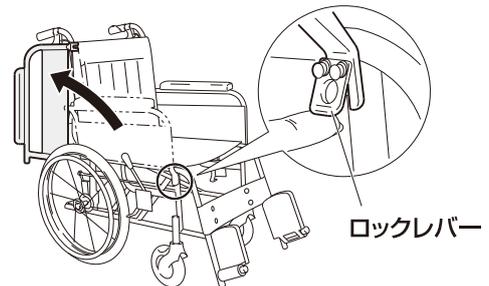
Bタイプ

ロックレバーの上側を押しながら、アームサポートフレームを持ち上げて後方へ跳ね上げます。



Cタイプ

ロックレバーを外側に引きながら、アームサポートフレームを後方へ跳ね上げます。



● 戻しかた

△注意 アームサポートフレームを下ろすときは、身体をはさまないように注意してください。

アームサポートフレームを下ろし、完全にロックされたことを確認します。

*アームサポートフレームを下ろした後、アームサポートフレームが完全にロックされていることを確認してください。

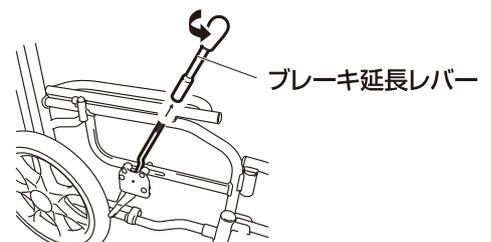
アームサポートの取り外し・取り付け

● 取り外しかた

1 アームサポートフレーム固定つまみをゆるめ、アームサポートフレームを真上に引き上げて取り外します。



2 ブレーキ延長レバーを回して取り外します。
*レバーはなくさないように注意してください。



● 取り付けかた

1 アームサポートフレームの前後をはめ込み、しっかりとハマったことを確認してから、アームサポートフレーム固定つまみを締め込みます。

2 ブレーキ延長レバーをしっかりと取り付けます。

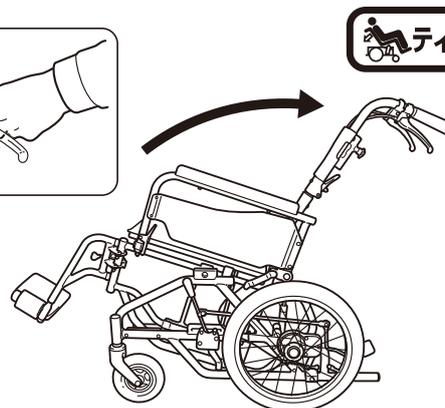
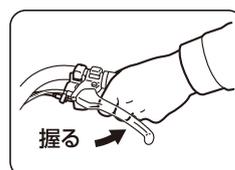
シートの角度調節（ティルト機能）



△注意

- ・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・介助者は、操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。また、倒すときは、使用者の体重が手押しハンドルに掛かりますので、しっかり支えてください。
- ・ティルト操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていることを十分に確認してから行ってください。使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていると、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。

- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 手押しハンドルグリップのレバーを握ります。
(マークが付いたオレンジ色のグリップです。) 座面の角度が可動範囲内で調整できます。
- 3 お好みの角度が決まったら、レバーを放します。
シート角度が固定されます。
- 4 シートとバックサポートにガタつきがないことを確認します。



- * 操作はゆっくり行ってください。レバーの握りこみが不十分だとロックが解除されず、操作ができませんのでご注意ください。
- * 自走型の場合、ティルト・リクライニング角度によっては駆動輪がアームサポート上面より飛び出す場合があります。その場合は車輪が体に接触しないよう、アームサポートの高さを調節してください。(P.13「アームサポートの高さ調節」参照)
- * 使用者の体格や状態、シートおよびバックサポートの角度によっては後方への安定性が低下する場合があります。その場合はシート、バックサポート角度を戻し、車いすを安定させた状態でご使用ください。

バックサポートの角度調節（リクライニング機能）



△注意

- ・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけ、転倒防止バーを付けた状態で行ってください。
- ・介助者は、操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。また、倒すときは、使用者の体重が手押しハンドルに掛かりますので、しっかり支えてください。
- ・リクライニング操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていることを十分に確認してから行ってください。使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていると、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。

●倒しかた

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけ、転倒防止バーがしっかり付いていることを確認します。
- 2 手押しハンドルグリップの背角度調整レバーを握り、背シートをゆっくり後ろに倒しレバーを放します。
(マークが付いた緑色のグリップです。) バックサポー角度が固定されたらシートとバックサポートにガタつきがないことを確認します。



背角度調整レバー

●起こしかた

「倒しかた」と逆の要領で行ってください。

- * 操作はゆっくり行ってください。レバーの握りこみが不十分だとロックが解除されず、操作ができませんのでご注意ください。
- * 自走型の場合、ティルト・リクライニング角度によっては車輪がアームサポート上面より飛び出す場合があります。その場合は車輪が体に接触しないよう、アームサポートの高さを調節してください。(P.13「アームサポートの高さ調節」参照)
- * 使用者の体格や状態、シートおよびバックサポートの角度によっては後方への安定性が低下する場合があります。その場合はシート、バックサポート角度を戻し、車いすを安定させた状態でご使用ください。

フット・レッグサポートの開閉・取り外し

フット・レッグサポートをワンタッチで開閉することができます。車いすへの乗り降りの際、フットサポートが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

⚠警告

- ・フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて使用者の転倒、落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。
- ・開閉時、フック部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。けがをする恐れがあります。
- ・乗り降りの際、スイングアウト部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

● 開きかた

回転レバーを矢印の方向に引き、そのままフット・レッグサポートを外側に回転させて開きます。

● 閉じかた

⚠注意

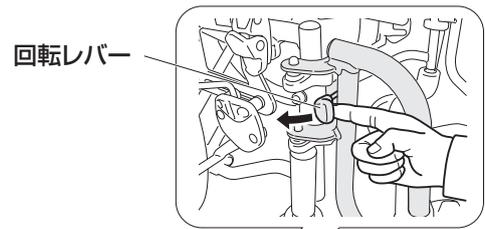
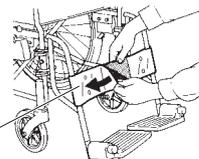
フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないように注意してください。

フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。

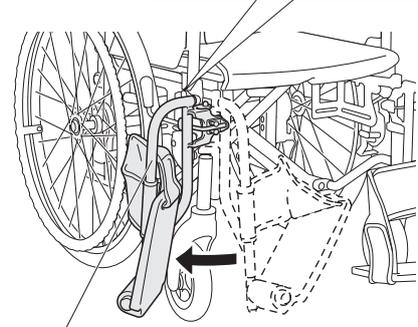
* フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないように注意してください。

* フット・レッグサポートを開く前に、レッグサポートを取り外しておいてください。
(左右接続タイプの場合)

レッグサポート



回転レバー



フット・レッグサポート

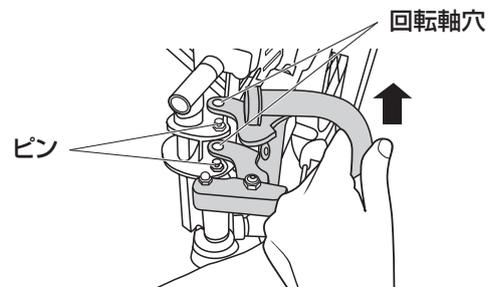
● 取り外しかた

フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、垂直に引き上げます。

● 取り付けかた

車体フレーム側の2つのピンにフット・レッグサポート側の回転軸穴(2箇所)を合わせてはめ込みます。

- * フット・レッグサポートを開いた状態で、フット・レッグサポートに力を加えないでください。金具が変形し故障の原因となります。
- * フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないように注意してください。



ピン

回転軸穴

フット・レッグサポートの取り外し・取り付け

車いすによっては、用途や好みに応じてフット・レッグサポートを取り替えることができます。フット・レッグサポートを取り替えるときは、下記方法に従って、フット・レッグサポートの取り外し・取り付けを正しく行ってください。

⚠警告

- ・フット・レッグサポートの取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて使用者の転倒、落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。

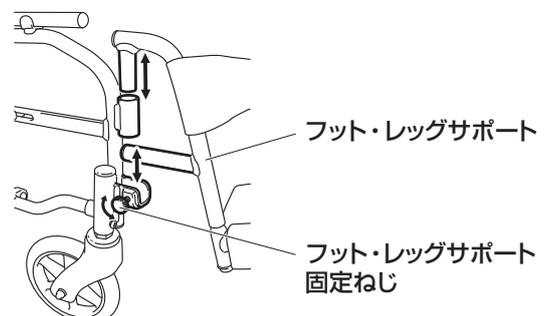
● 取り外しかた

フット・レッグサポート固定ねじをゆるめた後、フット・レッグサポートを垂直に引き上げて取り外します。

● 取り付けかた

取り外しと逆の要領でフット・レッグサポートを取り付けた後、フット・レッグサポート固定ねじをしっかりと締め付けます。

* 取り付け後、フット・レッグサポートが確実に固定されていることを確認してください。



フット・レッグサポート

フット・レッグサポート
固定ねじ

各部の調節のしかた

⚠警告 各部の調節は必ず駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行ってください。

アームサポートの高さ調節

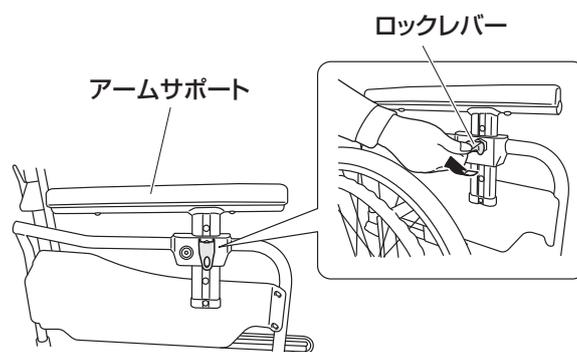
⚠注意

- ・高さ調節をした後は、必ず固定されたことを確認してください。
- ・調節中にアームサポートが下がり、アームサポートフレームとアームサポートの間に指をはさまないように注意してください。けがをする恐れがあります。
- ・アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。

- 1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 ロックレバーを引いてロックを解除します。
- 3 アームサポートの高さを調節し、希望の高さでロックレバーを押し下げます。
- 4 ロックレバーがいっぱいまで下がり、アームサポートが確実に固定されていることを確認します。

* 反対側も同じ高さに調節してください。

* 調節後、アームサポートがしっかり固定されていることを確認してください。



フットサポートの高さ調節

使用者に合わせて、フットサポートの高さを適切な位置に調節してください。

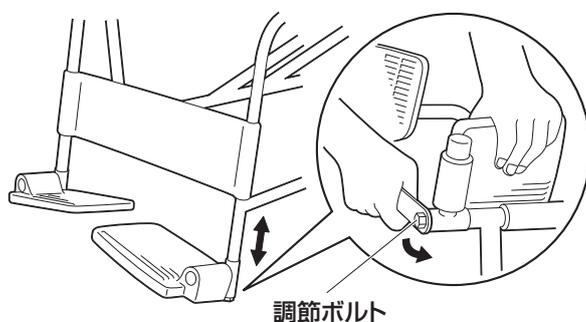
⚠注意 フットサポートは、地上より50mm以上あげた状態で使用してください。

ポスト式フットサポート

- 1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 フットサポートの裏側の調節ボルトをスパナなどでゆるめます。
- 3 使用者の足に合わせ、フットサポートの高さを調節します。
- 4 調節を終えたら、調節ボルトを締め付けて固定します。

* 反対側も同じ高さに調節してください。

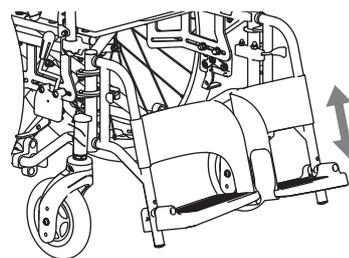
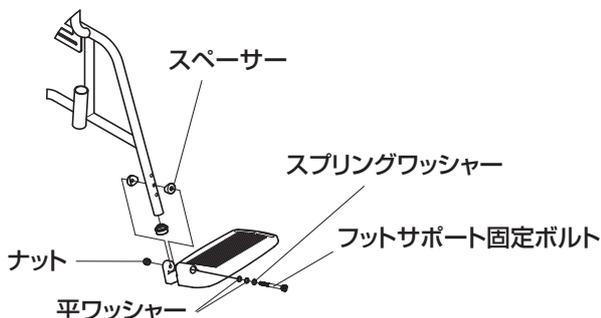
* フットサポートが回転せず、しっかり固定されていることを確認してください。



軽量フットサポート

フットサポートは20mm間隔で3段階の高さに調節することができます。

- 1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 フットサポートを下ろした状態で、フットサポート固定ボルトを外します。
- 3 脚の長さに合わせてフットサポートの高さを調節します。



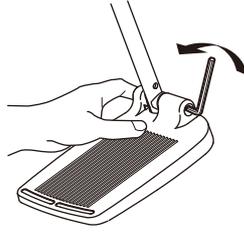
- 4 希望の高さの穴を決めたら、固定ボルトを差し込み、ナットと共に締め付けて固定します。

* 反対側も同じ高さに調節してください。

フットサポート調節のコツ

取り外すとき

- 六角レンチ等を使ってフットサポート固定ボルトを反時計回りに回します。反対側からナットが飛び出てきたら、ナットを指で押さえておきます。



⚠注意

ボルトがナット側に突き出ているときは、ナットを指で押さえているとけがをする恐れがありますのでご注意ください。

- フットサポート固定ボルトが空回りをはじめたら、車いすを傾けてボルトとナットを取り外します。

取り付けるとき

- フットサポート固定ボルトの位置合わせをするときは、穴をのぞいてそこにボルトを挿入してください。
- フットサポートは、片手で回転できるくらいの固さを目安に取り付けてください。このとき、フットサポート固定ボルトを締めすぎないように注意してください。

座面の高さ調節

座面の高さを最大3段階（低・中・高）に調節することができます。

座面の高さ調節は、駆動輪（主輪）とキャストの取り付け位置をそれぞれ対応する高さ（低、中、または高）に調節することで行います。

* 駆動輪（主輪）とキャストは、それぞれ左右同じ高さに調節してください。

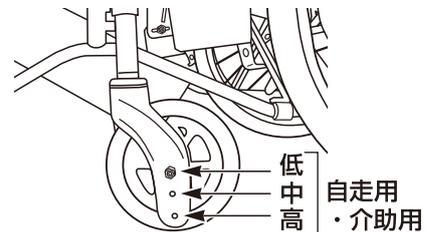
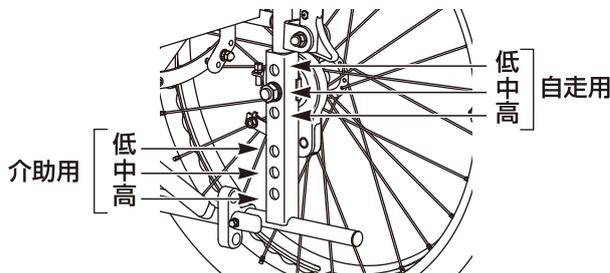
* 座面の高さを変更したら、必ず駐車用ブレーキの取り付け位置も併せて調節してください。

駆動輪（主輪）とキャストの調節範囲

Aタイプ

駆動輪（主輪）

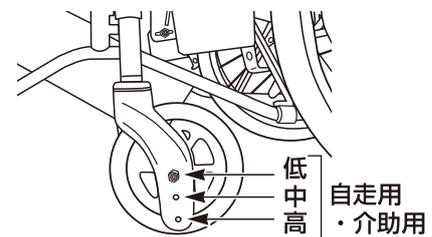
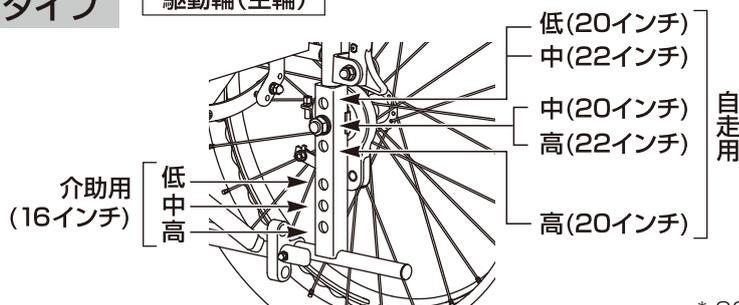
キャスト



Bタイプ

駆動輪（主輪）

キャスト

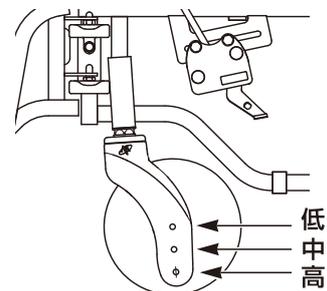
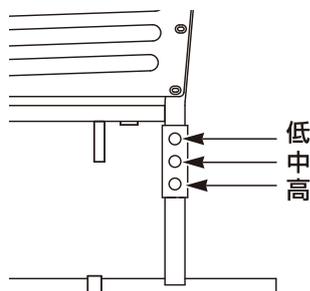


* 22インチは中・高のみ *調整機能のない機種もございます。

Cタイプ

駆動輪

キャスト

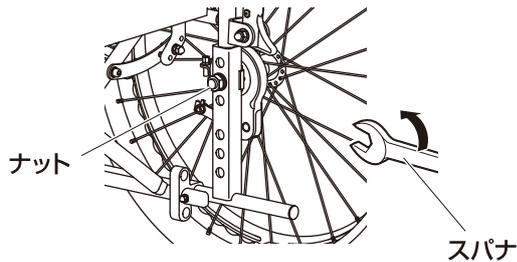


⚠危険

- ・ 駆動輪(主輪)とキャストは、必ず対応する高さ設定に調節してください。
- ・ 駆動輪(主輪)とキャストの調節を誤ると、腰掛けた場合に転倒する恐れがあります。
- ・ 使用者を乗せたまま調節を行うのは、絶対におやめください。

駆動輪(主輪)の高さを変える

- 1 作業しない側のブレーキのみかけます。
- 2 駆動輪(主輪)の車軸内側のナットをスパナなどで回して外し、駆動輪(主輪)を引き抜きます。
*このとき、ドラムブレーキも一緒に取り外します。



- 3 駆動輪(主輪)を取り付ける穴を決め、駆動輪(主輪)の車軸をドラムブレーキ等に通し、本体フレームに差し込みます。
- 4 車軸内側にナット等を取り付け、しっかりと締め込みます。
- 5 駆動輪(主輪)がガタつかず、しっかりと固定されていることを確認します。

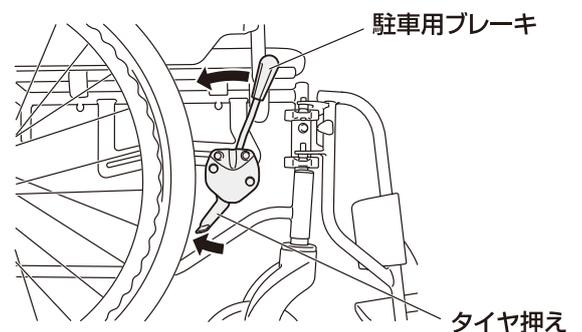
* 反対側も同じ高さに調節してください。

駐車用ブレーキの取付位置を調節する

- * 座面の高さを調節したら、駆動輪(主輪)と駐車用ブレーキ間の距離が変わります。必ず駐車用ブレーキの取付位置を調節してください。
- * ブレーキの効き具合を随時点検し、効きが悪い場合は、ブレーキの取付位置を調節してください。

- 1 駐車用ブレーキの内側のナット(2本)をレンチなどでゆるめます。
- 2 駐車用ブレーキをかけたときに、タイヤに駐車用ブレーキのタイヤ押えが当たり、駆動輪(主輪)がしっかり止まる位置に調節します。
- 3 ナット(2本)を締め、駐車用ブレーキがガタつかずしっかりと固定されていることを確認します。

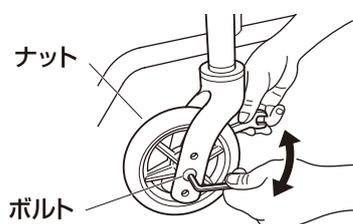
- 4 駐車用ブレーキをかけ、駆動輪(主輪)がしっかり止まることを確認します。



- * 駆動輪(主輪)がしっかり止まらない場合、または駐車用ブレーキが効きすぎる場合は、再度調節してください。
- * 反対側も同様に調節してください。

キャストの高さを変える

- 1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 キャスタ軸のナットをスパナなどで回して外し、ボルトを抜きます。



- 3 前ページ「駆動輪(主輪)とキャストの調節範囲」に従って、駆動輪(主輪)と同じ高さ設定になる取付け穴にボルトを差し込み、しっかりとナットを締め込みます。

- 4 キャスタがしっかりと固定されていることを確認します。また、キャストがスムーズに回転することを確認します。

* 反対側も同じ高さに調節してください。

フット・レッグサポートの上げ下げ（エレベーター機能）

フット・レッグサポートの角度をお好みに合わせて変えることができます。脚を持ち上げたいときや、ひざ関節の曲がる範囲が限られている場合などに便利です。

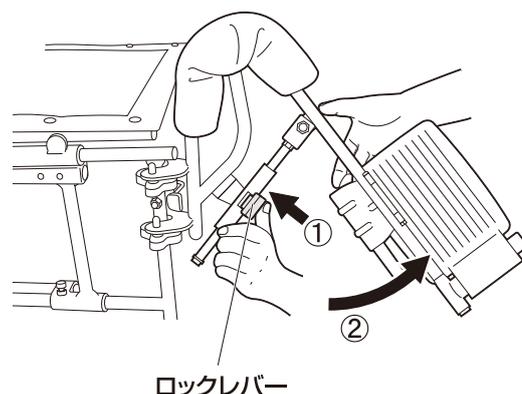
メカニカルロックタイプ

角度の変えかた

- 1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 ロックレバーを上押し込んでロックを解除します。このとき急に動かない様にフット・レッグサポートを支えながら操作してください。
- 3 希望の角度までフット・レッグサポート位置を調整しロックレバーを放します。

* フットサポートが回転せず、しっかり固定されていることを確認してください。

* 反対側も同じ角度に調節してください。



5段階調整タイプ

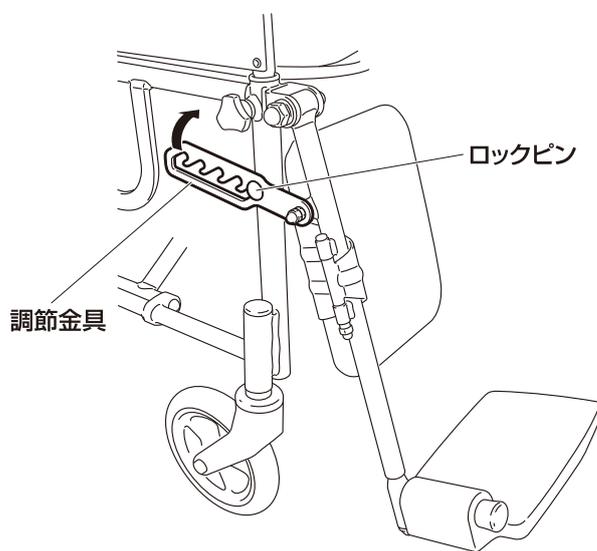
角度の変えかた



注意 調節金具とロックピンの間に指をはさまないように注意してください。

- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 調整金具を上持ち上げてロックを解除します。このとき急に動かない様にフット・レッグサポートを支えながら操作してください。
- 3 フットサポートが希望の角度になる位置で、調整金具を下ろします。
* このとき、ロックピンが調整金具の穴にしっかりとハマり、ロックされたことを確認します。

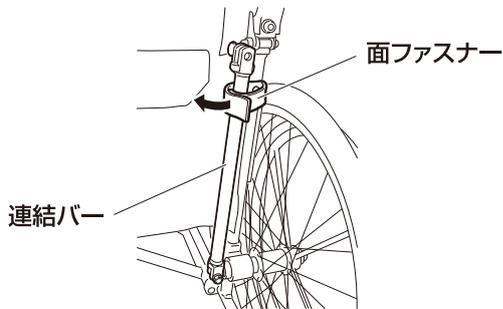
* 反対側も同じ角度に調節してください。



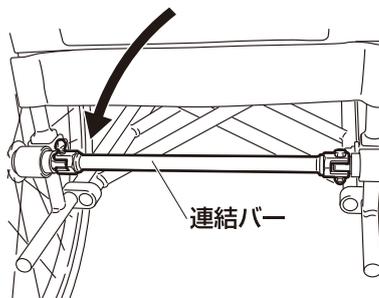
連結バーの取り付け・取り外し [片手駆動(シャフト式)仕様車のみ]

● 取り付けかた

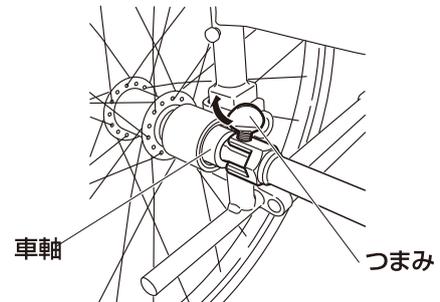
- 1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 連結バーを留めている面ファスナーを外します。



- 3 連結バーを反対側の車軸につなぎます。



- 4 車軸を回してネジのつまみの部分を上に向け、しっかりとネジを締め付けます。

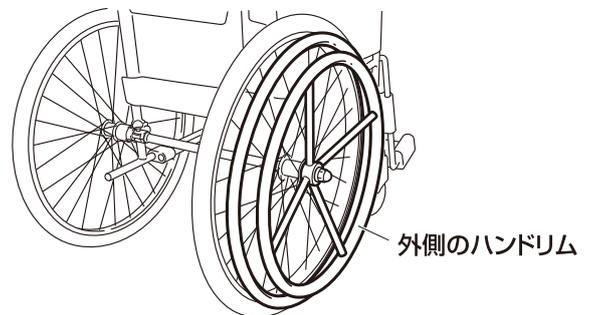


● 取り外しかた

取り付けとは逆の要領で、連結バーを取り外してください。

● 操作のしかた

外側のハンドリムで、連結された車輪を操作することができます。



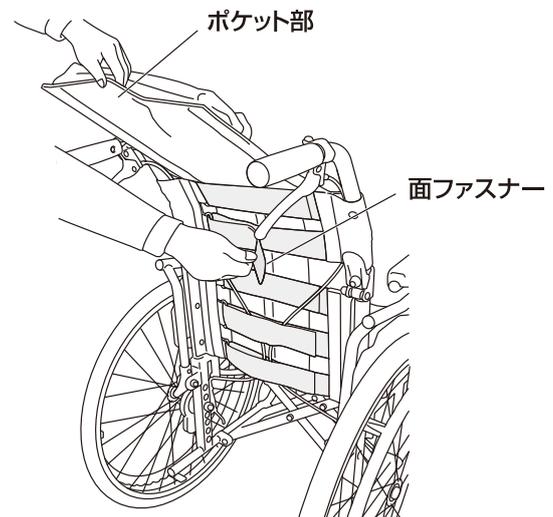
バックサポートの張り具合調節

*バックサポートの張り具合を随時チェックし、必要に応じて調節してください。

△注意

- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。
- ・面ファスナーの張り具合を過度に強くしますと、十分に車いすが開かなくなりフレームの変型の原因になります。

- 1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 ポケット部をめくり上げます。
- 3 面ファスナーをはがし、バックサポートの張り具合を調節した後、もう一度面ファスナーをしっかりと貼り合せます。
*手でバックサポートを押し、確実に固定されていて、張り具合が適切であることを確認してください。
- 4 ポケット部を元に戻します。

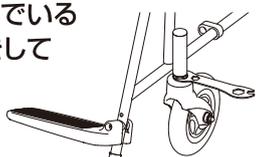


使用上のご注意

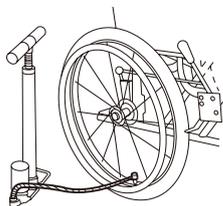
保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

* 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

⚠ 警告	キャストの旋回軸やキャスト・駆動輪(主輪)・ブレーキ等は定期的に点検してください。ゆるんでいるときは増し締めをしてください。 
-------------	--

- ・タイヤの空気を自転車と同じ要領で補充してください。長時間使用なくても空気は抜けていきます。空気が抜けた状態で使用すると、タイヤやチューブを傷め、破損する恐れがあります。(タイヤの空気圧はタイヤ側面に明記されています。)



- ・ブレーキの効き具合が悪いときは、タイヤの空気圧を調整してください。それでもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
- ・パンクのときは、販売店または最寄りの自転車店におたずねください。また、パンクしたまま乗らないでください。
- ・使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。(地上より50mm以上あげてください。)

- ・車いすは熱気、湿気に弱いため、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所、直射日光の当たる場所には放置しないでください。

● 消耗品、交換部品の確認

⚠ 注意	交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。
-------------	---

- ・それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。新しい部品に交換する際は、お買上げの販売店へご連絡ください。
- ・ハイポリマータイヤは、表面に溝がない状態やひび割れがみられる状態で使用を続けると、タイヤ内部に水分が浸食して加水分解を起こし、タイヤの劣化が早まります。お早めに交換してください。

消耗品・交換部品

品名	交換時期
駆動輪(主輪)	タイヤの表面に溝がなくなったとき。タイヤにひび割れなどが見られる場合。
キャスト	表面の摩耗が著しいとき。しっかり締めつけても車輪ががたつくとき。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。ひどく汚れたとき。面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、錆が発生したとき

お手入れ・保管について

● フレームのお手入れ

- ・フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
- ・水などがかった場合は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

● シートのお手入れ

- ・シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、その後乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

● タイヤのお手入れ

- ・タイヤやリムが汚れた場合は、中性洗剤を使用して擦り洗いをしてください。水に濡れた後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

● アームサポート、グリップ等の樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

⚠ 注意	・車いすや各部品を乾かすときは、直射日光をさけて陰干ししてください。 ・シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。
-------------	--

● 保管・収納について

- ・収納スペースが少ないときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
- ・錆やタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

⚠ 注意	折りたたんだ車いすを持ち上げる際、アームサポートなどの樹脂部分のみを持たないでください。破損する恐れがあります。
-------------	--

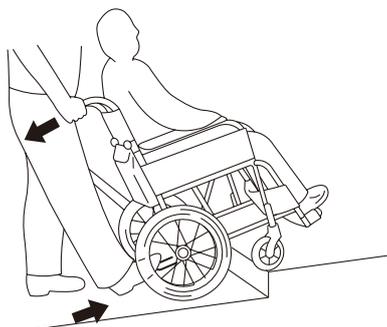
走行上のご注意

- ・車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- ・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
- ・溝や踏切の線路による落輪、キャストのはさみ込みには充分注意してください。
- ・踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。
- ・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。
- ・エスカレーター（車いす対応エスカレーターは除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）での使用は、絶対に行わないでください。
- ・公共交通機関をご利用の際は、係員の指示に従ってください。



段の上がりかた

- 1 足元のティッピングレバーを押し出し、手押しハンドルを手前に引くようにして、キャストを段の上にあげます。



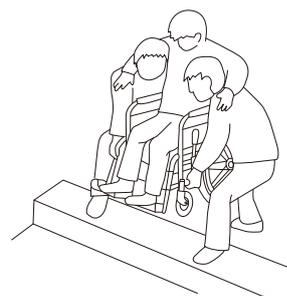
- 2 駆動輪（主輪）を段に突き当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。
*無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。

車いすに乗ったまま持ち上げる場合

⚠警告

持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、アームサポートフレーム、背折れジョイント、フット・レッグサポート、フットサポートなどは持たないでください。

車いすに乗ったまま持ち上げるときは2人以上で行い、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかり持ち上げるようにしてください。



段の下りかた

手押しハンドルとティッピング部分で車いすを支えながら、ゆっくり段を下ります。

- *無理な力による段差の下りかたは、フレームの破損につながります。
- *段差のあるところを下るときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり下ってください。車いすの破損や故障の原因となります。

困った時には

車いすをご使用されていて『故障かな』と思われましたら、販売店へ連絡する前に下記項目を確認してください。

症状	確認点	対処
車いすがまっすぐ走らない。 斜行する。	路面が傾斜していませんか。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。 <自走の場合> 傾斜面の低い側に当たる駆動輪をより強く回してください。 <介助者が押す場合> 傾斜面の低い側に当たる手押しハンドルに、より力を入れて押してください。
	車いすは、傾斜面では低い方へ前輪が流れる特性があります。	
	駆動輪(主輪)の空気圧の不足、また左右の空気圧に差がありませんか。	左右の駆動輪(主輪)を適正な空気圧に調整してください。
駐管用ブレーキが効かない。	駆動輪(主輪)の空気圧は適正ですか。	駆動輪(主輪)を適正な空気圧に調整してください。 適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。
	駆動輪(主輪)のタイヤは摩耗していませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	駐管用ブレーキのタイヤ押えが駆動輪(主輪)にきちんと当たっていますか。駐管用ブレーキがガタついていませんか。	
制動用ブレーキ(介助ブレーキ)が効かない。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かたりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
駆動輪(主輪)に空気がはいらぬ、すぐにぬける。	適正な空気圧で補充してますか。	駆動輪(主輪)を適正な空気圧に調整してください。 適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。
	トップナット(コア押さえ、バルブナット、バルブスリーブ)が緩んでいませんか。	締め付けてください。
	タイヤチューブのパンク、バルブの消耗はしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
異音がする。	本体や車輪とオプション品、アクセサリーなどとの干渉はしていませんか。	車いすに取り付けて使用するカバンなどは車輪など回転する箇所と干渉しないようにしてご使用ください。
	可動部分の錆び・摩耗・汚れ・油さねなどによっておこる摩擦音がしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ボルト類の緩み等がおきていませんか。	
	フレームに歪みが発生していませんか。	
車いすが開かない	バックサポートの張り具合を締めすぎていませんか。	バックサポートの張り具合を調整してください。
リクライニング(ティルト)の動きが悪い。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かたりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取りまわしを修正してください。 改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。

アフターサービス

- ・ 万一故障の場合は、お買い上げの販売店、または弊社へこの商品の品名および故障状況をご連絡ください。
- ・ 保証期間内の場合は、保証書の提示が必要となります。

保証

- ・ 保証内容につきましては、同封の保証書をご覧ください。
- ・ 保証期間終了後の修理については、お買い上げの販売店、または弊社へお申しつけください。
修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有償修理いたします。

車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

製造元

 Wheel Chair
Miki 株式会社 ミキ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号